



## 四旬節第 1 主日 (マルコ 1:12-15)

生き方の根本的な転換をイエスは求める

21日、田平教会の中学生5人と大人1人が、堅信の秘跡を受けます。大司教様が説教でていねいに説明してくださると思いますが、主任神父様も、堅信を受ける皆さんに、心構えを話しておきたいと思います。

まず、堅信の秘跡は司教様が授けると学びました。長崎教区には2人の司教様、ヨセフ高見三明大司教様とペトロ中村倫明補佐司教様が与えられています。堅信を授けてくださるのは高見三明大司教様です。

皆さんは、主任司祭の顔だったら、目を閉じても思い浮かべることができるでしょう。頭ピカピカ、最近ひげを伸ばして、説教のときに笑えない話をする神父様です。それだけ記憶に残っているからです。

では、高見三明大司教様の顔は、目を閉じても思い浮かべることができるのでしょうか？名前は聞いたことがあるけれども、顔が思い出せないかも知れません。けれども堅信を受けるのですから、顔をしっかりと見て、目に焼き付けて帰ってきてください。堅信式が終わったら、もう近くで顔を見ることはないかも知れませんが、それでも忘れない。それくらいしっかり目に焼き付けて帰ってきてほしいのです。

中田神父様は中学1年生の時に、神学院で堅信式を受けました。司祭になることを目指す生徒を育てるのが神学院です。堅信を授けてくださったのは、里脇枢機卿様でした。「司教様」と呼びませんが、枢機卿様の多くは司教様です。里脇大司教様が枢機卿様になってすぐでした。

今でも、里脇枢機卿様をはっきり覚えています。枢機卿様の地位になると、緋色の服装が正式な服装になります。中学生に制服があるように、黒のワンピースの形をした「スータン」が制服です。司教様は黒のスータンに赤の帯と、頭に赤いかぶり物をするのが正装です。枢機卿様は、全身緋色のスータンに赤い帯、頭にも赤いかぶり物が正装です。

私たち神学生が玄関で枢機卿様を待っていると、黒の高級車から、颯爽と枢機卿様が降りてこられました。なんと全身緋色のスータンに、赤い帯、赤い帽子、黒の革靴の下にチラッと見えた靴下も真っ赤でした。中田神学生は最初に何と思ったのでしょうか？真っ黒の高級車から、真っ赤な服の「お方」が出てきたのです。中田神学生は「うわ、相当な不良だわ」と思ったのです。赤い服に赤い靴下。神学生の服装の決まりから考えたら、それはもう最高の不良の格好ですよ。中学校でも、でしょ？

第一印象はそうでしたが、堅信式のミサは厳かな雰囲気で行われました。堅信の秘跡を受ける人が一人ずつ、枢機卿様の前に立ちます。枢機卿様は慣れた手つきで、堅信のために用意された聖人の名前を呼びながら堅信の秘跡を授けます。私たちの学年の堅信名は、福音を書いた聖人「ルカ」となっていて、「ルカ。父の賜物である聖霊のしるしを受けなさい」「アーメン」「主の平和」「主の平和」とやり取りします。

いよいよ私の順番がやって来ました。枢機卿様の顔は私の30センチ前です。私が見たもの。それは枢機卿様の鼻の下でした。私の記憶では

鼻の下が 10 センチくらいあって、鼻にかかった声で私に呼びかけたのです。「るか。ちちのたまものであるせいれいのしるしをうけなさい。」

私は必死にこらえて、「アーメン」と答えました。「しゅのへいわ」のあともようやく「主の平和」と答えました。申し訳ないけれど、枢機卿様の大切なお話は覚えていません。鼻の下が 10 センチあったこと、聖香油を塗ってもらったこと。これだけが、私の堅信式の思い出です。

それでも、聖霊の七つの賜物があの時堅信を受けた同級生に働き、知恵と理解・判断と勇気・神を知る恵み・神を愛する恵み・神を敬う心がどんどん育って行って、当時いた 17 人の同級生のうち、4 人が司祭になりました。そのうちの 3 人が、今も宣教の第一線で働いているのです。

今週の福音朗読は、イエス様がサタンから誘惑を受け、誘惑をはねのけて、ガリラヤで宣教活動を始める様子です。イエス様の声の一つだけ朗読の中にありましたね。「時は満ち、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信じなさい」(1・15)。

イエス様が語った声をよく考えましょう。最初にこう言っています。「時は満ち、神の国は近づいた。」そしてそのあとに「悔い改めて福音を信じなさい」とあります。イエス様はこの順番で呼びかけて、「神様が先に、贈り物として、神の国の姿を見せてくれたのです。だからあなたたちは、神様のほうに向き直りなさい」と促しているのです。

堅信の秘跡で、聖霊の七つの賜物が与えられます。神様は先に恵みを注いで、私たちにこれから向き直る方向を示してくれるのです。もちろん堅信を受けるために勉強はしました。お祈りも今まで以上にしました。けれども勉強とお祈りの量に比べたら、聖霊の七つの賜物の大きさは比べものになりません。

堅信の恵みの凄さを中田神父様が気づいたのは、堅信を受けてから 14 年も経ってからです。聖霊の恵みが、神学校生活を続け、教会に通い続ける私を育ててくれて、ついに神様を知り、神様を愛し、神様を敬うために生きる司祭してくださいました。司祭に叙階された時に、こんなにすごい恵みを中学 1 年でもらったんだと、神様に深く感謝したのです。

堅信の秘跡を受けた途端に、もう教会に行くのは終わりだと、勝手に中断してしまう人がいます。その人は、自分の力で堅信の秘跡の恵みを受けたから、教会に行く必要は無いと考えているのでしょうか。本当に自分の力で恵みを受けたのでしょうか？

いいえ、そうではありません。お父さんお母さんに、おじいちゃんおばあちゃんに聞いてご覧なさい。誰も、自分の力で堅信の恵みを受けたと言わないと思います。そして、聖霊の恵みのほうが、私の努力よりはるかに大きいことを知っているから、続けて教会に来ているのです。

堅信の秘跡を受けて、神様の招きにはっきりと向き直りましょう。恵みはいつも、先に与えられます。私たちが神様の示す道に喜んで向かうことができるように、「聖霊来てください」と、聖霊の賜物を願うことにしましょう。